

鹿 17 大蛇と鹿 = = = 猪・鹿・狸より

大蛇が鹿を追ったと言う話がいろいろあった。

滝川の村から小吹川（こぶぎがわ）に沿うて、一里ほど山奥へ入り込んだところに、小吹（こぶぎ）と言う一つ家があった。その山には大蛇が棲むともっぱら言い伝えたが、かつて鳳来寺村布里から、山越しして来た男は、行く手に松の大木が倒れていると思って近づくと、蛇の胴体だったと言うた。ある時滝川の狩人が、朝早くそこへ引鹿を撃ちに行くと、見上げるような高い崖の上から鹿が転がり落ちてきた、不思議に思って崖の上を仰ぐと、今しも一匹の大蛇が、鎌首を差し出して下を覗いているのに、びっくりして遁げて来たと言うた。

伊那街道筋の、双瀬（ならせ）にもほぼ同じような話があったと言う。そこに高く切り立ったような崖があって、崖の上が宙に差し出したようになった場所だったそうであるが、ある時狩人がその下に休んでいると、崖の上から何やらえらい音をさせて落ちて来たものがあった。見るとそれが鹿で、前の話と同じように蛇に追われて来たというのである。同じような話はまだ他でも語られていたが、ただ八名郡石巻村〔現、豊橋市〕にあったと言う話だけは、さらに不思議な物語がついていた。

ごく新しいことだと言うて、そのものの名前まで聞いたがもう忘れてしまった。某の狩人が朝暗いうちに起きて、石巻山に鹿撃ちに出かけて、山の中腹の崖の下に行って夜明けを待っていたと言う。その崖というのはいわゆる懸崖で、高い岩が屋根のように差し出して、崖の上は遥かに峰続きになっている。アギトとも言うて、さらに上には登ることの出来ぬような地形である。その岩の頭へ姿を見せる鹿を撃つためだった。すると夜の明け方に、思いがけなく、岩の上から、一匹の大鹿が転がり落ちてきた。驚いて崖を見上げると、高い岩の上から、二間もある鎌首を差し出して、恐ろしい大蛇が下を覗き込んでいた。びっくりしてすぐ鉄砲を取り直して、蛇を目がけて放したと言う。すると恐ろしい音を立てて蛇は手繰るように落ちて来て、えらい苦しみをして死んだそうである。狩人はそのまま鹿を引昇いで、どんどん家へ遁げてくると、戸口に女房が真っ蒼な顔をして倒れていたと言う。驚いて助け起してだんだんわけを聞くと、女房は夫を送り出してから一眠りするうち、夢を見たのである。今しも一匹の大蛇になって、鹿を追いかけて行くと、その鹿が、崖の下へ転がり落ちたので、上から覗き込むと、下に狩人がいていきなり鉄砲で自分を撃ったとまでは知っていたそうである。それからは夢中で、床を転がり出して、門口まで来ると、そこに倒れて気を失ったのである。だんだん聞いて見ると、男が蛇を撃った時と寸分ちがわなんだと言うのである。

何だかまだ欠けた点があるようである。この話を聞いたのは小学校へ通っている頃で、学校へ行く途中だったと思う。自分より四つ五つ年上の子供が、昨夜中村（宝飯村中村）の伯父が泊まって父に話したのを、脇から聞いたと語ったものである。今では子供もその父も死んでしまって、もう詳しいことを聞き糺すあてもない。同じ八名郡の鳥原は、昔から大きな蛇がたくさんいた処と言った。ある時鹿を喰えた大蛇が、山の裾を、草を押し分けて走って行くところを見たと言う話もあった。